

(5) 竹製品情報収集事業

別府産業工芸試験所 吉岡誠司
佐藤幸志郎

要旨

公設の試験研究機関は、研究や開発のための機器や設備の充実はもとより、文献、映像資料や消費動向といった各種情報、そしてそれらを編集並びに発信する機能についての整備が求められている。本事業は、平成4年度から6年度の3年間で全国に散在する竹製品と竹工技術に関する資料を幅広く収集し、情報をデータベースとして編集加工、整備することにより、当所を竹製品開発を行う地場企業のオープンライブラリとして位置付け、さらには、全国に向けて竹に関する試験研究や製品開発にいたる広範な視点で寄与する事を目的として事業を推進した。

1. 緒言

この事業は、竹製品の素材をはじめ各種加工技術、技法並びに製品デザイン等のデータを収集して再編集を行い、研究基礎データとして蓄積する。さらには、情報の提供システムとしてコンピュータによる検索、出力を可能にして常時利用できる体制を備え、来所する事により書籍や参考製品、資料等の閲覧ができるように整備を図ることとした。

2. 収集方法

2-1 概要

初年度は、県内の情報整備をはじめ国や他府県の研究機関の報告等を中心に技術開発やデザイン開発のデータを収集し、所内の図書のコナーに「竹のライブラリ」を設けて竹工従事者の積極的な活用に対応できるよう整備した。2年目は、他産地や企業等の生産現場に赴き、加工技法や製品について調査した。特に技法については、ビデオによる収録編集も行った。最終年度も引き続き産地を調査し、これまでの資料を整理、約600件の検索用データを入力した。さらには、事業のまとめとした研究

報告会並びに情報デザイン研修会を開催した。

2-2 調査

3年間で46ヵ所の関係機関や事業所を調査した。初年度は、公設機関や竹に関係した団体等（旧製品科学研究所、森林総合研究所、旧神奈川県工芸指導所、日本民芸館他）を調査して、会報や報告書、図録を入手した。また、本事業を紹介して情報を提供いただくために、富士竹類植物園報告や日本竹を守る会の会報に紹介記事を掲載した。

次年度は、ブローチや籠類の産地として知られる新潟県佐渡郡や青竹製品、孟宗竹を展開した材料で製品開発を試みる鹿児島県の調査を行うとともに農具などの参考品を購入した。また、素材は竹でないが兵庫県豊岡市の柳細工の編組についても調査し、製品や作業工程の写真収録を行った。

最終年度は、九州や四国等（熊本県伝統工芸館、沖縄県立博物館、松山竹製品協同組合、滋賀県扇子工業協同組合他）を中心に調査したが、近年の生活様式から竹製の用途が減少しており生産企業が少なくなっている。

年度別事業概要

| | 平成4年度 | 平成5年度 | 平成6年度 | |
|------|---|--|--|--|
| 事業内容 | 事業計画作成 | 文献情報収集 ・技術資料 ・特許検索 | 文献情報収集 ・技術資料 ・特許検索 | 参考品による情報提供 |
| | 文献情報収集 ・書籍 ・研究報告書 ・研究会会報 ・写真集 | 編組加工技術調査 ・産地調査 ・ビデオ撮影 製品デザイン調査 ・参考品の購入 ・参考資料の入手 | 文献情報及び編組加工技術のまとめ ・データ入力 事業の周知 ・情報ファイルの作成 ・研究報告会の開催 | パソコンによる検索 「竹のライブラリ開設」 画像や映像によるデータファイルの活用 情報デザイン研修会の開催 |

3. 収集資料

3-1 参考品

当所には現在335点の参考品があり、そのうち97点が昭和53年以前に製作された試作品で、約80点が県内で製作、購入した竹製品となっている。その他は、全国の竹産地の商品や地場の生産者より寄贈してもらっている。

産地の商品としては、岩手県二戸郡のスズ竹製品、静岡県静岡市の駿河千筋細工、奈良県高山の茶笥、沖縄県納婦仁村のワラビ細工、岡山県勝山の青竹製品等多岐にわたり購入している。また、旧工業技術院の九州出張所より移管された椅子や文庫、備品として故生野祥雲斎の宗全籠、故岩尾光雲斎の柄付き花籠など貴重な製品も数多くあり、いずれも手にとって見る事ができる。

3-2 特許・実用新案

竹に関する特許・実用新案の情報は、県高度技術開発研究所からPATOLISにより検索、オフライン出力した。

検索の条件（論理式）及び件数は、Fk（竹製品+竹材+竹製+竹ひご）の場合、特許で183件、実用新案で233件。Fk（竹節+竹筒+竹踏み+竹馬+竹皮+竹片+竹へら+竹木+竹葉+竹類）の場合、特許で97件、実用新案で124件になった。

総件数637件の出力は、平成6年1月13日に行ったもので、全て要約付きになっており、出願番号順にまとめている。今後は隔年ごとに目次で出力し、状況に応じて要約や抄録で出力を行う。



写真1 編集資料

3-3 ビデオ収録

ビデオによる収録は、特殊な工芸技術を有する県内の

3企業で行った。昔ながらの技法により青竹で整理籠や果物籠を製作している伝統工芸士には、原竹からヒゴづくりなど前段の作業を中心に収録した。県内竹田市の竹刀の生産者には、材料取りから各作業工程を簡潔に作業してもらっている。中津市にある県内唯一の和傘製造業では、数多くの製造工程があるが、ツナギや胴張りなど最初の工程部分を収録した。

3-4 書籍

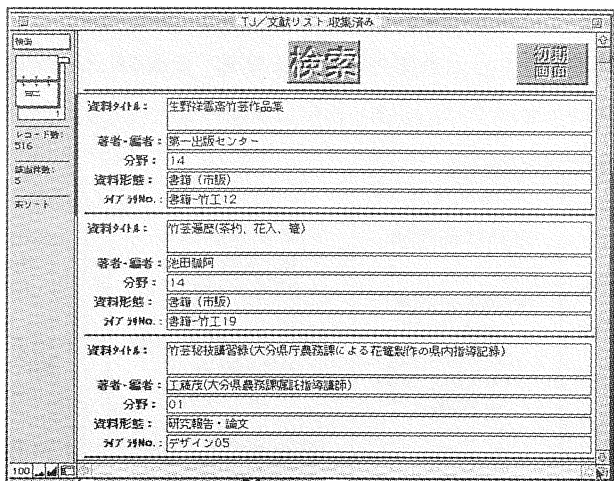
当所には約450冊の登録された書籍があり、そのうち竹に関するものが100冊ある。分野は、竹工芸の技術書、竹の生活用具、植栽、竹垣の写真集など様々で、ラタン製品など国外の解説書も備えている。竹工芸の技術書は特異なものだけに数が少なく、当所が編集、発行したものをはじめ貴重なものも多い。竹に関する書籍も他の資料と同様にすべてパソコンによる検索ができる。

3-5 検索

データドライブから「文献リスト」を立ち上げ、それにより「入力」、「検索」、「印刷」と書かれた初期画面が表示され、該当する項目により作業を進める。

検索の場合、資料に関する具体的な情報としてタイトルや著者がわかっている場合は、それらの情報を入力して、検索する。データ画面は、大きく分けて4つの項目になっている。（タイトル、著作、資料形態等が記入され、その後所蔵方法や発行元、検索条件）

また、資料の分類方法が事前わかっている場合は、備え付けのリストにより閲覧したい資料番号を調べて資料を探す。



検索画面

4. まとめ

大分県の竹製品は、編組技術についてかなり高度であるが、竹の素材開発や竹工技術においては先進地があり、技術や情報の交換を行う必要がある。そうした中で、本事業はこれまで情報の収集として各機関の積極的な協力を得て成果を得ることができた。情報は、継続すること

と発信することが重要であり、今後も引き続き事業を行う必要がある。また、竹製品の産地として静岡県、奈良県、岡山県など代表的な地域との調査や交流も図ってきたい。

参照 平成4、5年度別府産業工芸試験所研究報告